

人口ビジョン データ修正について

1. 人口ビジョンに記載のあるデータの修正

1. 志摩市の人口推移

1) 説明文（修正なし）

志摩市の人口の推移を示したグラフが、図1です。

大正9年に44,013人だった本市の人口は、第1次ベビーブーム（昭和22～24年）を経て、昭和22年には60,391人となり、昭和30年には66,628人となってピークを迎えました。その後、高度経済成長期の第1人口移動期（昭和35～48年）（※1）を経て人口が若干減少するものの、第2次ベビーブーム（昭和46～49年）を経て人口は若干増加します。その後、第2人口移動期（昭和55年～平成5年）（※2）には顕著な人口の減少は見られませんが、第3人口移動期（※3）に入る平成12年から急速な人口減少が続いています。

このように、若干の増減はありますが、本市の人口は半世紀以上前から減少を続けており、近年その減少に拍車がかかっています。

2) 図・表

平成27年国勢調査確定値（50,341人）に修正

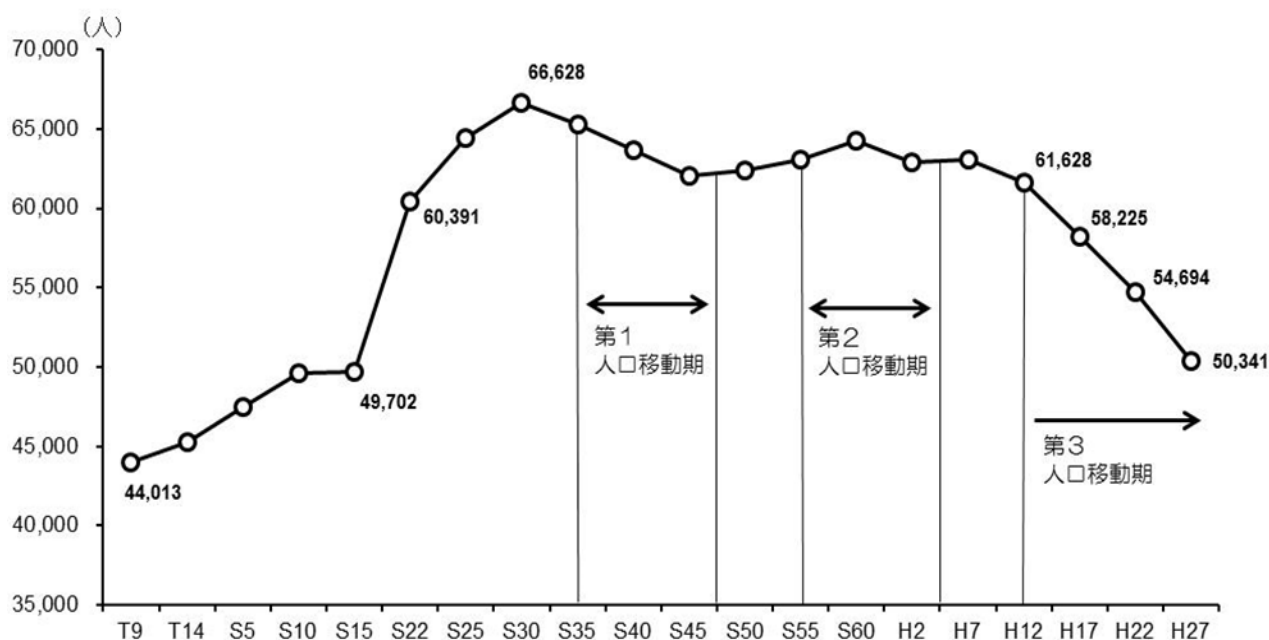


図1. 志摩市の人口推移（資料出所：国勢調査）

3) 既存掲載ページ

3 ページ 「1-1. 総人口の推移」

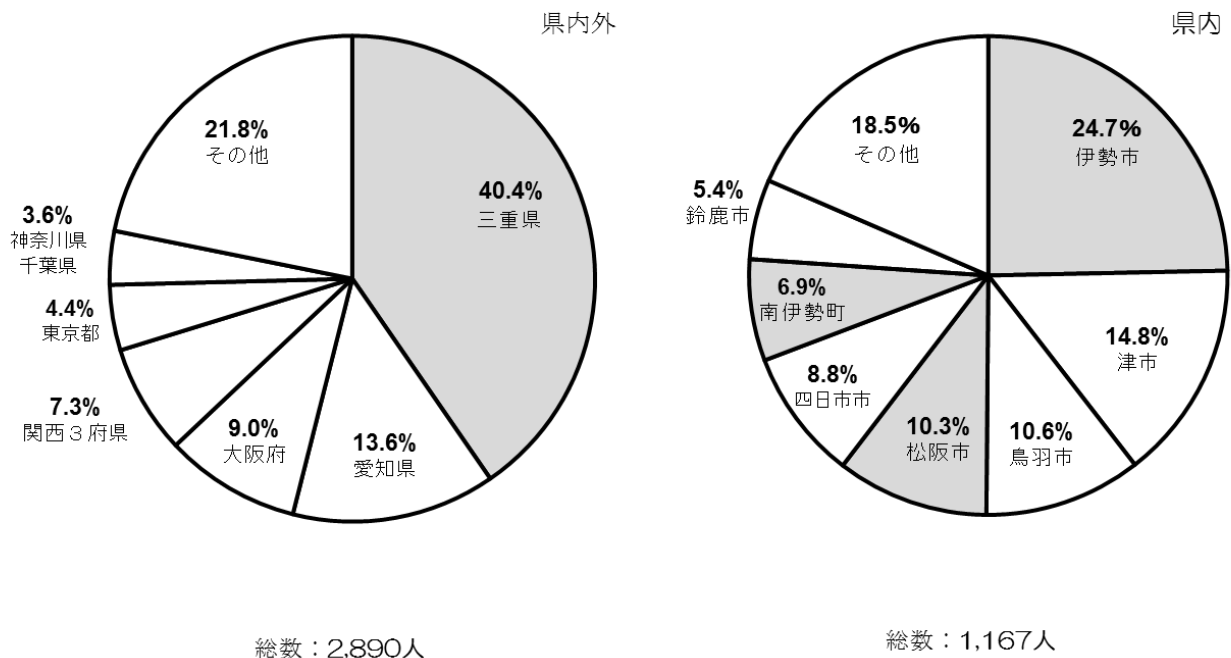
2. 平成 25 年から平成 27 年に志摩市へ転入してきた人の前住所

1) 説明文

平成 25 年から平成 27 年までの 3 年間の住民基本台帳の情報から、転入者がどこから来ているかをまとめたグラフが、[図 20](#) です。

転入者の [40.4%](#) が三重県内からの転入となっています。県外については愛知県、大阪府及び関西 3 府県（兵庫県、京都府、奈良県）からの転入者が [29.9%](#) を占めています。なお、東京都からの転入者は [4.4%](#) となっています。県内の転入者については、伊勢市、鳥羽市及び南伊勢町からの転入が [42.2%](#)、津市及び松阪市からの転入が [25.1%](#) となっています。

県内からの転入が多く、県外からの転入も比較的近隣の府県からの転入が多くなっています。また、県内からの転入についても比較的近隣の市町からの転入が多くなっています。



[図 20](#). 平成 25 年から平成 27 年に志摩市へ転入してきた人の前住所

(資料出所：志摩市 住民基本台帳)

3) 既存掲載ページ

19 ページ 「2-2. 志摩市に引っ越してくる人と志摩市から出ていく人」

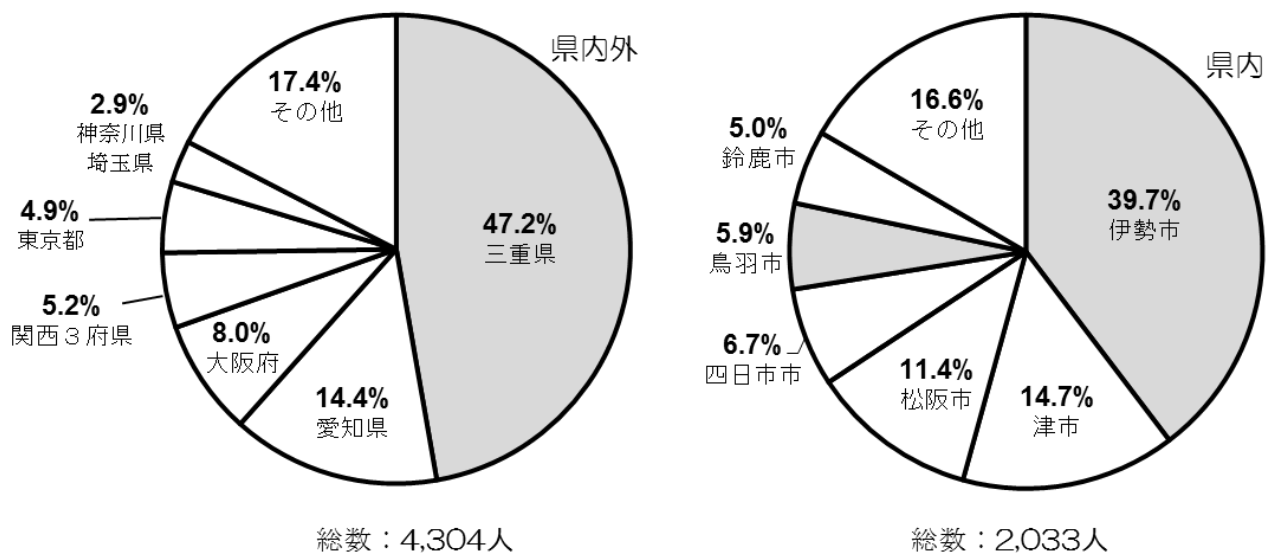
3. 平成 25 年から平成 27 年に志摩市から転出した人の行き先

1) 説明文

転入者と同様に、平成 25 年から平成 27 年までの 3 年間の住民基本台帳の情報から、転出者がどこに行っているかをまとめたグラフが、[図 21](#) です。

転出者の [47.2%](#) が三重県内への転出となっています。県外については愛知県、大阪府及び関西 3 府県（兵庫県、京都府、奈良県）への転出者が [27.6%](#) を占めています。東京都への転出は [4.9%](#) となっています。県内への転出者については、伊勢市及び鳥羽市への転出が [45.6%](#)、津市及び松阪市への転出が [26.1%](#) となっています。

県内への転出が多く、県外への転出も比較的近隣の府県への転出が多くなっており、転入者と同じ傾向が見られます。また、県内への転出についても比較的近隣の市町への転出が多くなっており、こちらも転入者と同じ傾向が見られます。



[図 21. 平成 25 年から平成 27 年に志摩市から転出した人の行き先](#)
(資料出所：志摩市 住民基本台帳)

3) 既存掲載ページ

20 ページ 「2-2. 志摩市に引っ越してくる人と志摩市から出ていく人」

4. 平成 28 年の志摩市における観光入込客数

1) 説明文

志摩市の雇用や産業生産を支える産業は、観光関連産業として成立しているものと考えられるため、地域経済を把握するうえで観光について特記します。

志摩市を訪れる観光客数は、平成 17 年より全国観光統計基準に合致する市内 19 の調査対象地点への入込客数として、日帰り客と宿泊客に分けて集計されています。平成 28 年の集計結果を示した表が、表 9です。

これによると、年間 387 万人程度の観光客が本市を訪れていることとなります。

なお、19の調査地点は、年間の入込客数が 5 万人以上または特定時期（月間）の入込客数が 5 千人以上となる観光地点という基準に合致する地点やイベントが対象となっていることに加え、入込者数の総数は調査地点を訪れた人が重複されてカウントされた延べ数となっています。そのため、当該調査で得られる入込客数は、実態を強く反映しているものの志摩市を訪れる観光客の実数を把握するものではないことに留意する必要があります。

2) 図・表

平成 28 年のデータに更新

地区別	調査地点	日帰り	宿泊	入込客数
磯部町	磯部旅館街	31,687	422,935	2,069,511
	渡鹿野島	5,023	61,820	
	志摩スペイン村	1,208,000		
	道の駅「伊勢志摩」	249,484		
	伊雑宮	77,851		
	志摩市観光農園	8,363		
	志摩ロードパーティ	4,348		
阿児町	阿児旅館街	19,624	541,258	1,038,095
	英虞湾景観	153,974		
	志摩マリランド	163,421		
	賢島エスパーニャクルーズ	159,818		
浜島町	浜島温泉街	31,317	326,860	412,596
	磯体験施設「海ほおずき」	19,419		
	伊勢えび祭	35,000		
大王町	ともやま公園	39,834	102,698	212,120
	大王埼灯台	48,338		
	年末海族市	21,250		
志摩町	志摩旅館街	11,598	62,510	141,174
	御座白浜海水浴場	67,066		
合計		2,355,415	1,518,081	3,873,496

表 9. 平成 28 年の志摩市における観光入込客数（資料出所：志摩市）

3) 既存掲載ページ

32 ページ 「2-1. 志摩市を訪れる観光客数」

5. 志摩市を訪れる日帰り客と宿泊客の推移

1) 説明文

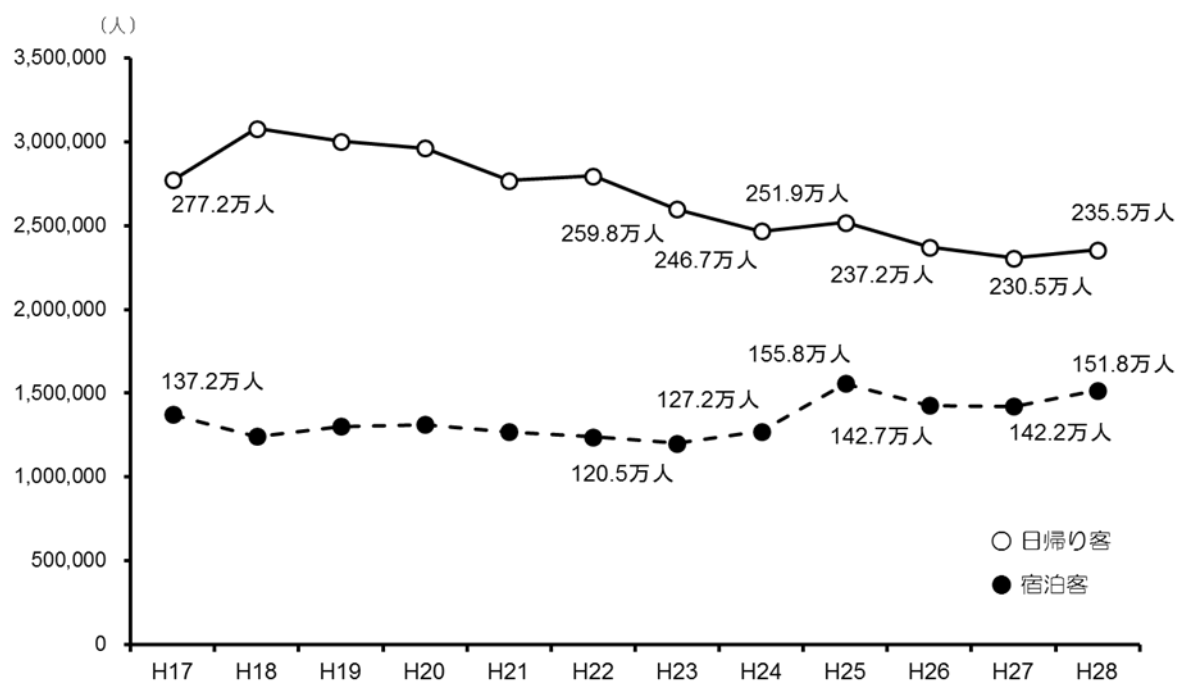
平成 17 年からの全国観光統計基準に基づく志摩市への入込客数について、日帰り客と宿泊客に分けて、その数の推移を示したグラフが、[図 33](#)です。

志摩市への入込客は、平成 17 年から平成 22 年までは 400 万人以上を維持してきましたが、日帰り客が徐々に減少して平成 23 年に 400 万人を下回り、近年は 380 万人程度で推移しています。日帰り客数については、ほぼ一貫して減少傾向にありますが、宿泊客数については、120～130 万人で推移した後、平成 25 年からは 140～150 万人で推移しています。

平成 17 年に 33%だった入込客数に占める宿泊客数の割合は、減少する傾向にありましたが、平成 25 年に 38%に増加してからは平成 28 年も同水準を維持しています。

2) 図・表

平成 28 年のデータを追加



[図 33](#). 志摩市を訪れる日帰り客と宿泊客の推移 (資料出所：志摩市)

3) 既存掲載ページ

33 ページ 「2-1. 志摩市を訪れる観光客数」

6. 各地区の日帰り客が全日帰り客に占める割合

1) 説明文

志摩市の日帰り客に占める各地区の日帰り客の割合を示した表が、[表 10](#)です。

日帰り客のおよそ 70%が訪れている地区が、磯部町です。これは、志摩スペイン村を訪れる観光客によるものと考えられます。その他に比較的来訪者が多い地区は、日帰り客のおよそ 20%が訪れている阿児町です。これは、観光施設が集まっている賢島や志摩市内で最も利用者の多い鵜方駅があるためと考えられます。一方、浜島町、大王町及び志摩町は、比較の日帰り客が少ない地区です。

2) 図・表

平成 28 年のデータを追加

(%)	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
磯部町	68.33	64.20	65.04	64.57	67.26	62.04	65.38	66.88	71.17	72.43	70.83	67.28
阿児町	9.86	15.24	15.42	15.48	15.12	15.41	15.34	15.64	16.24	15.05	17.22	21.09
大王町	4.43	3.70	4.71	5.73	4.78	6.59	6.86	5.06	5.10	5.36	4.80	4.65
浜島町	11.26	11.10	9.12	7.98	7.97	9.82	8.82	8.39	3.76	3.67	3.55	3.64
志摩町	6.12	5.76	5.71	6.25	4.88	6.15	3.61	4.02	3.73	3.48	3.60	3.34

[表 10](#). 各地区の日帰り客が全日帰り客に占める割合（資料出所：志摩市）

3) 既存掲載ページ

34 ページ 「2-2. 志摩市を訪れる観光客の来訪先」

7. 各地区の宿泊客が全宿泊客に占める割合

1) 説明文

志摩市の宿泊客に占める各地区の宿泊客の割合を示した表が、[表 11](#)です。

宿泊客の約 35%は阿児町に、約 32%は磯部町に、約 20%は浜島町に宿泊しており、3地区で宿泊客全体の89%が占められています。大王町及び志摩町については、日帰り客に加えて、宿泊客も少ない傾向にあります。

2) 図・表

平成 28 年のデータを追加

(%)	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
阿児町	31.42	32.45	36.73	34.86	36.27	36.28	35.20	33.13	35.36	35.14	35.60	35.65
磯部町	31.08	31.00	29.25	30.51	29.42	32.74	30.86	30.73	30.28	29.76	29.58	31.93
浜島町	23.31	24.12	24.28	21.74	21.75	18.75	20.11	22.76	22.86	23.76	23.13	21.53
大王町	8.79	7.48	5.05	8.34	8.00	7.93	8.66	8.49	7.69	7.09	7.38	6.76
志摩町	5.40	4.95	4.68	4.56	4.56	4.31	5.17	4.89	3.80	4.25	4.30	4.12

[表 11.](#) 各地区の宿泊客が全宿泊客に占める割合（資料出所：志摩市）

3) 既存掲載ページ

34 ページ 「2-2. 志摩市を訪れる観光客の来訪先」

8. 志摩市、鳥羽市及び伊勢市を訪れた外国人宿泊客数の推移

1) 説明文

志摩市、鳥羽市及び伊勢市を訪れる外国人宿泊客の推移を示したグラフが、[図 36](#)です。伊勢志摩地域においては、志摩市に宿泊する外国人が多く、またその増加幅も大きくなっています。

2) 図・表

平成 28 年の志摩市のデータを追加。

(鳥羽市及び伊勢市のデータが 3 月中にまとまる予定のため今後追加する)

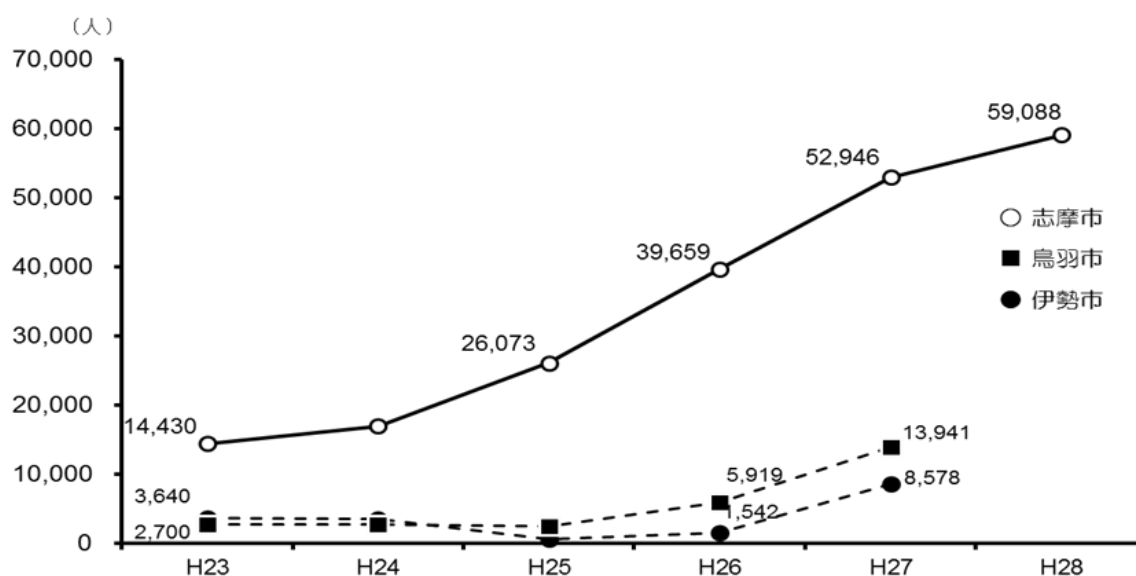


図 36. 志摩市、鳥羽市及び伊勢市を訪れた外国人宿泊客数の推移
(資料出所：外国人宿泊統計集計 観光庁・三重県)

3) 既存掲載ページ

34 ページ 「2-2. 志摩市を訪れる観光客の来訪先」

9. 平成 28 年の志摩市を訪れた外国人宿泊者数の割合

1) 説明文

平成 28 年の志摩市の外国人宿泊客数の月別割合を示したグラフが、図 38です。

4月にピークを迎え、春から初夏にかけて外国人宿泊客が多く訪れる傾向にあり、志摩市を訪れる観光客が最も多くなる7月、8月は減少しています。9月以降は同程度の割合で推移しており、志摩市を訪れる観光客の割合と同程度となっています。

前年は、月ごとによる変動が大きい傾向が見られましたが、平成 28 年は年間を通して平準化しています。

2) 図・表

平成 28 年のデータに更新。

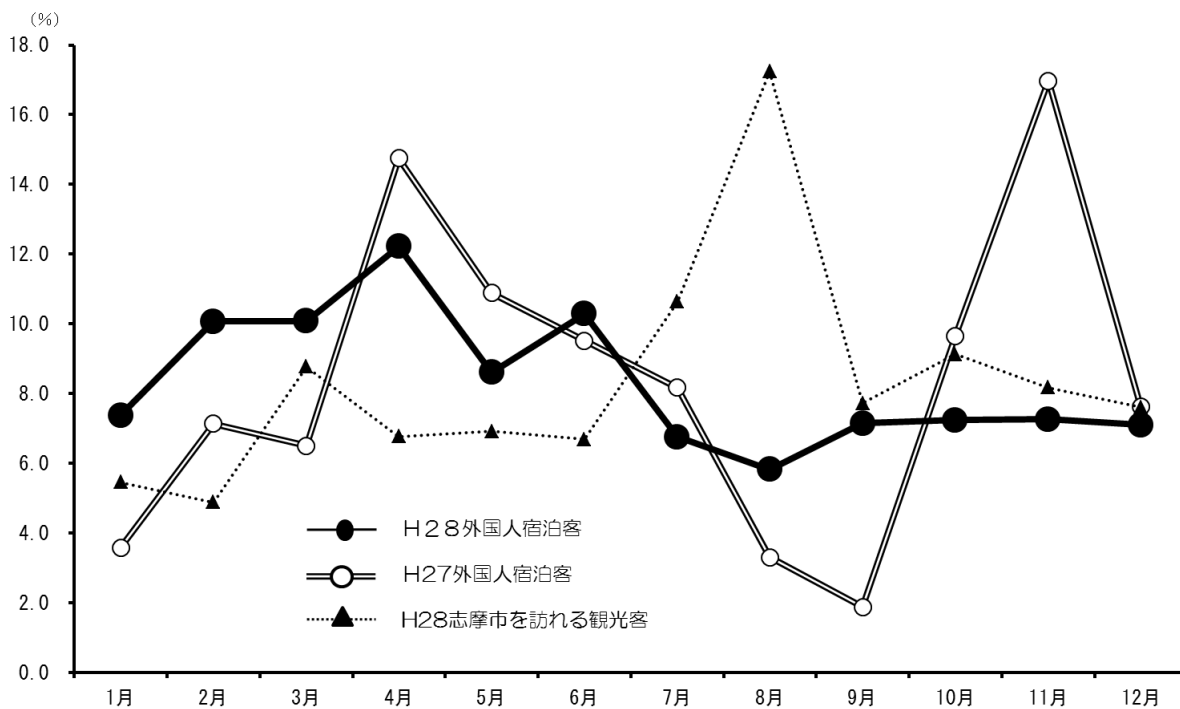


図 38. 平成 28 年の志摩市を訪れた外国人宿泊者数の月別割合
(資料出所：外国人宿泊統計集計 観光庁・三重県)

3) 既存掲載ページ

42 ページ 「2－8. 志摩市を訪れる外国人観光客の来訪時期」

2. 人口ビジョンに新規に掲載するデータ

10. 平成 28 年に志摩市へ転入してきた人の前住所

1) 説明文（追加）

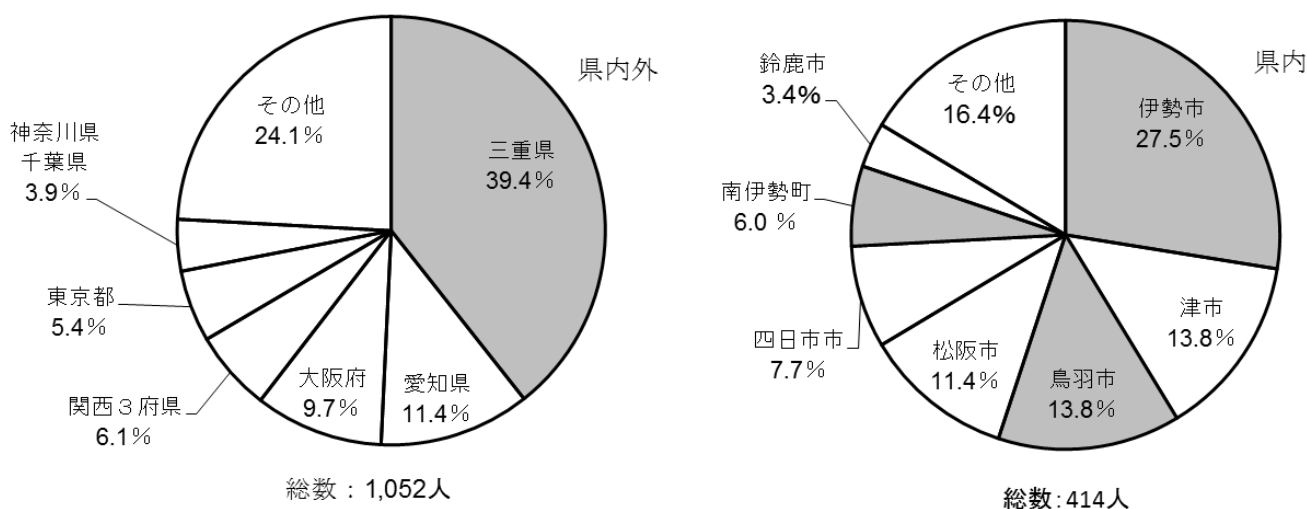
平成 28 年の転入者が志摩市に転入する前の住所をまとめたグラフが、**図〇**です。

県内からの転入者が 40%程度と依然として高い割合を占めていますが、平成 25 年から平成 27 年の割合と比較すると減少しています。県外からの転入については、愛知県及び関西 3 府県で若干の減少がみられる一方、大阪府、東京都等が微増となっています。

県内からの来訪元についても県内外と同様に平成 25 年から平成 27 年の平均と大きな変動は見られません。

2) 図・表

平成 28 年のデータを新規に追加



図〇. 平成 28 年に志摩市へ転入してきた人の前住所

(資料出所：志摩市 住民基本台帳)

3) 既存掲載ページ

20 ページの次に追加予定

11. 平成 28 年に志摩市から転出した人の行き先

1) 説明文 (追加)

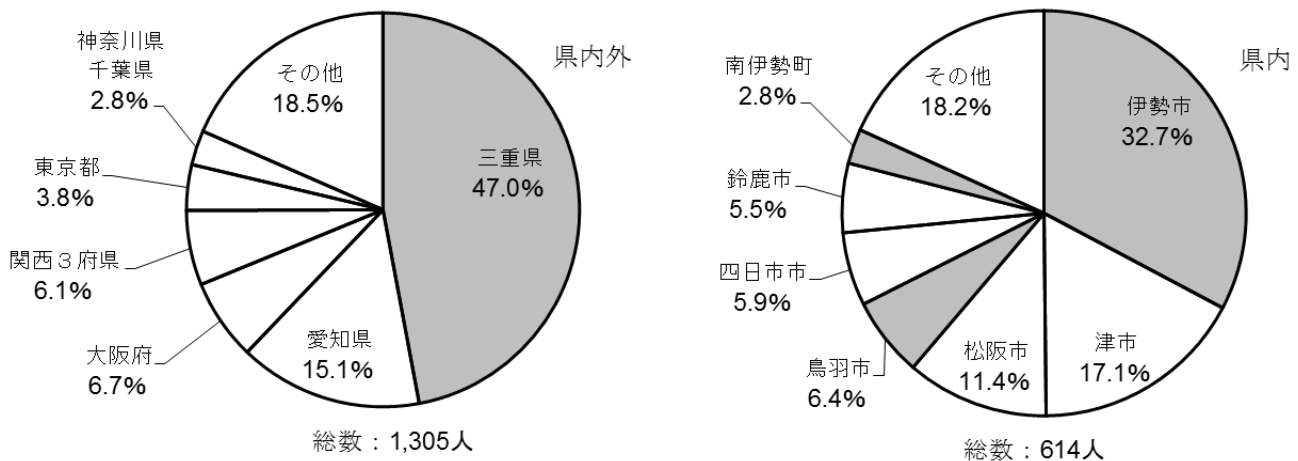
平成 28 年に志摩市から転出した人が、どこへ行ったかをまとめたグラフが、**図〇**です。

転出先として最も多かったのが、三重県内への転出で 47.0%となっており平成 25 年から平成 27 年の平均とほぼ同じ割合となっています。次いで愛知県、大阪府となっています。東京都への転出は 3.8%と過去 3 年間の平均より微減しています。

三重県内への転出先は、平成 25 年から平成 27 年の転出先割合と順位の変動はなく、また、割合に多少の増減はありますがこちらも大きな変動はありません。

2) 図・表

平成 28 年のデータを新規に追加



図〇. 平成 28 年に志摩市から転出した人の行き先

(資料出所：志摩市 住民基本台帳)

3) 既存掲載ページ

20 ページの次に追加予定

12. 平成 28 年の年齢層別の転出者数と転入者数

1) 説明文 (追加)

平成 28 年の年代別の転入者数と転出者数をまとめたグラフが、図〇です。

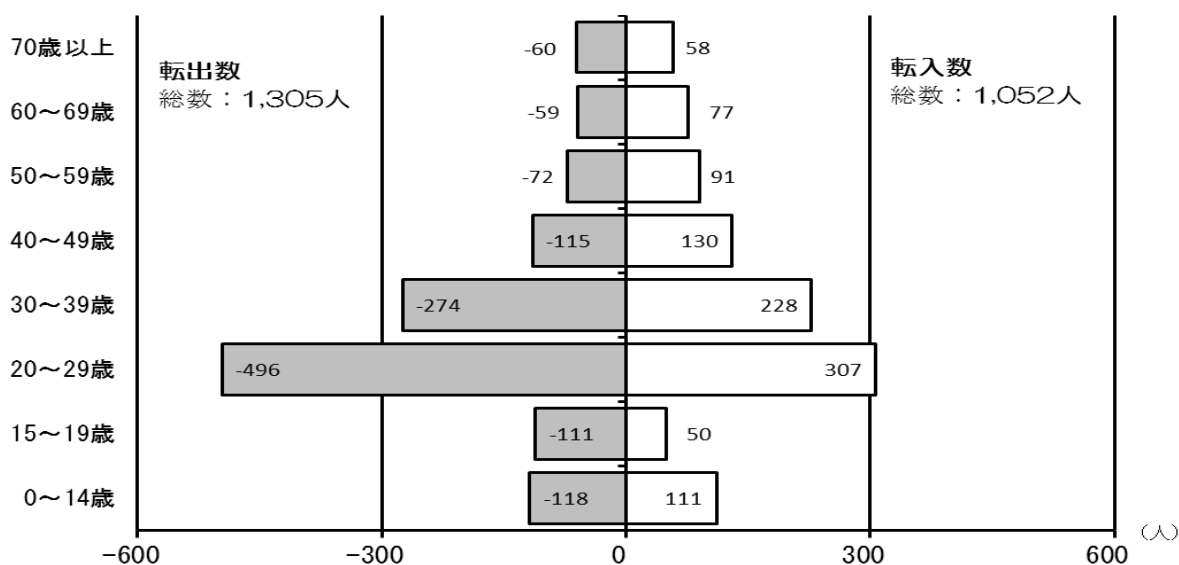
平成 25 年から平成 27 年までの 3 年間の平均値が 473 人の転出超過の状況であったものが、平成 28 年は 253 人の転出超過となっています。

社会減の最も大きな年代である 20～29 歳の状況を見ると、転入者数は大きな違いは見られません。一方、転出者数は、過去 3 年平均が 557 人に対し平成 28 年は 496 人となっており、転出超過の縮減の最も大きな要因となっています。また、これまで転入超過の年代が 60～69 歳だけであったものが、40～49 歳が 15 人、50～59 歳が 19 人、60～69 歳が 18 人の転入超過となっています。

依然として、志摩市の人口減少の要因となっている社会減は、進学及び就職に伴い多くの若者が転出しているためといえます。しかし、平成 28 年については、その年代の転入を維持しつつ、転出の減少が見られ、また、40～69 歳の年代で転入超過となっています。

2) 図・表

平成 28 年のデータを新規に追加



図〇. 平成 28 年の年齢層別の転出者数と転入者数

(資料出所：志摩市 住民基本台帳)

3) 既存掲載ページ

21 ページの次に追加予定